≪2年次生　人権教育講演会≫
演　　題「なぜ部落史を学ぶのか」～部落差別のない社会をめざして～
講　　師　西村　敦郎　氏(琴浦町立赤碕文化センター)

部落史についての研究は、近年めざましい深まりと広がりがみられ、部落史の学習の見直しが進められています。今回の講演では、江戸時代からではなく、中世から今日までの部落史について丁寧に説明し、そこから私たちが学ぶことは何か、語りかけてくださいました。

まず、社会の中で差別のはじまりとなっていたものは、よくわからないもの、「自分とは違う」と感じたものを排除する意識であったこと、その中で、被差別部落の人々が、差別をなくしていきたいという強い願いをもってたたかった姿勢、社会の中で生産や文化の発展に貢献し懸命に生きてきた姿勢に着目しました。また、差別が当たり前とされていた時代に、差別をしない生き方をした人たちがいたことにも着目しました。そして、どのような社会のしくみや人々の意識が部落差別を温存してきたのかを問いかけられました。

～生徒の感想より～
○　部落史についてより詳しく知ることができた。
○　差別をなくすためには正しい知識を身に付けること、学び続けることが必要だと改めて思った。
○　偏見を見抜く力や世間体に負けない力を身に付けたい。

≪2年次生　人権教育公開授業・意見交換会≫

講演後、部落の歴史を学び、被差別部落の人々が、差別をなくしていきたいという強い願いをもってたたかった姿勢、社会の中で生産や文化の発展に貢献し懸命に生きてきた姿勢から、自分の生き方・あり方を考えました。教科書無償化された過程にふれ、教科書無償化運動に携わった人々の姿勢から、現代を生きる自分たちが学ぶことは何か、意見交換を通して考えを深めました。

～生徒の感想より～
○　義務教育の教科書が無償なのは、当たり前のことだと思っていた。教科書が無償になるように、社会を変えようとした人たちの努力があったことを知ったので、忘れないようにしたい。
○　歴史の中で、差別をなくすためにたたかってきた人たちがいることを知った。学んだことを理解するだけでなく、広めていきたい。
○　今当たり前にあること、行動していることに差別性がないか、見直していきたい。

～保護者の感想より～
○　教科書無償化運動は、この運動に参加していた人だけではなく、すべての人のためになったことを忘れないでほしい。

◆◇◆　ＰＴＡ各種研修会報告　◆◇◆

● 第 48 回鳥取県人権尊重社会を実現する研究集会（8 月 18 日）
　米子西高 PTA 人権教育部員 1 名と教職員 2 名が参加しました。
● 令和 5 年度　PTA人権教育研修会（10 月 6 日）
　3 年ぶりの開催でしたが、米子西高保護者・教職員 30 名が参加しました。
　演　題「性の権利を守る学習会」
　　～子どもを性暴力の被害者・加害者・傍観者にしないために大人にできること～
　講　師　性暴力被害者支援センターとっとり　繁原　美保　氏
～参加者の感想より～
・　法改正も含めて現代社会の問題点を知ることができた。
・　性被害があった時、相談窓口があることを多くの人が知ることが必要である。
・　子どもを守るために正しい知識を身に付けることが必要である。